

3 研究実施体制

[概要]

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。その上で、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議・採択がなされ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての機能を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員（長期）の採用と研究プロジェクトへの配置なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 小倉 慈司

[客員教員]

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期間
春日 聡	客員准教授（多摩美術大学・非常勤講師）	歴博で実施する映像関連イベントや展示等、映像による研究成果の発信方法についての研究・企画立案	2023.4.1～ 2024.3.31
山田 康弘	客員教授（東京都立大学大学院人文科学研究科・教授）	①総合展示第1室「先史・古代」におけるWiFi活用についての検討並びにデジタルコンテンツ制作 ②博物館資料調査プロジェクト（縄文文化関連の考古資料）	2022.4.1～ 2024.3.31

[特別客員教員]

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期間
下田 誠	特別客員准教授（東京学芸大学先端教育人材育成推進機構・准教授）	基盤研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」	2023.4.1～ 2024.3.31
村上 忠喜	特別客員教授（京都産業大学文化学部京都文化学科・教授）	基盤研究「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究—制作とアーカイブスの実践的方法論の検討」	2023.4.1～ 2024.3.31
下村周太郎	特別客員准教授（早稲田大学文学部・准教授）	基盤研究「高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条里図と栄山寺寺領文書を中心に—」	2023.4.1～ 2024.3.31
鈴木 琢也	特別客員准教授（北海道博物館・学芸主幹）	基幹研究「交流・環境からみたオホーツク文化・擦文文化、アイヌ文化—その成立・展開過程—」	2023.4.1～ 2024.3.31
佐々木憲一	特別客員教授（明治大学文学部・教授）	基幹研究「東アジアからみた関東古墳時代開始の歴史像」	2023.4.1～ 2024.3.31
田中 祐介	特別客員准教授（明治学院大学・専任講師）	基盤研究「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」	2023.4.1～ 2024.3.31
阿部 昭典	特別客員教授（千葉大学大学院人文科学研究科・教授）	基盤研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」	2023.4.1～ 2024.3.31

[外来研究員]

氏名	研究課題	期間
下村 育世	近代日本における暦制度と神社神道に関する宗教史的研究	2023.4.1～ 2024.3.31
大場 あや	東アジアにおける葬制の変容メカニズムの比較研究—国家政策と地域的受容の観点から—	2023.4.1～ 2024.3.31
松蘭潤一郎	日本の武士団と法に関する調査・研究	2023.4.1～ 2023.6.30

[プロジェクト研究員]

氏名	研究プロジェクト	期間
賀 申杰	総合展示新構築プロジェクト（第5展示室「近代」・第6展示室「現代」）	2020.4.1～ 2026.3.31
篠崎 鉄哉	人新世に至る、モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究	2022.10.1～ 2024.3.31
三輪 仁美	延喜式のデジタル技術による汎用化	2023.4.1～ 2028.3.31
小風 綾乃	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2023.6.1～ 2024.4.30

[科研費支援研究員]

氏名	研究課題	期間
石井 匠	心・身体・社会をつなぐアート／技術	2019.8.1～ 2024.3.31
上 奈穂美	過去3万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基盤研究 過去1万年間の太陽活動	2022.4.1～ 2025.3.31

[リサーチアシスタント]

氏名	所属	研究プロジェクト	期間
古田 一史	小倉 慈司	延喜式のデジタル技術による汎用化	2023.5.1～ 2024.3.31
田井みのり	山田 慎也	高齢多死社会における生前から死後の移行に関する統合的研究	2023.4.1～ 2024.3.31
公家 怜亮	下村周太郎 (仁藤 敦史)	高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺 伽藍並条里図と栄山寺寺領文書を中心に—	2023.4.1～ 2024.3.31
小風 綾乃	後藤 真	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2023.5.1～ 2023.5.30
王 羽萌	田中 祐介 (三上 喜孝)	近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究	2023.4.1～ 2024.3.31
金久保拓未	田中 大喜	中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究	2023.4.1～ 2024.3.31
伊藤 静香	川村 清志	フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発	2023.4.1～ 2024.3.31

[研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 小倉 慈司

[主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
蛍光X線分析装置		日立ハイテクサイエンス	EA1400	2022年度	・元素分析（軽元素の測定可）
表面分離型質量分析計		Thermo Fisher Scientific	TRITON XT	2022年度	・ストロンチウム・ネオジウムなどの同位体分析
ICP質量分析装置		パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・微量元素分析
微小試料採取機器		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料、剥離漆の採取
マルチコレクタICP質量分析計（MC-ICP-MS）		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定（青銅製品などの産地推定等） ・ストロンチウム同位体比の測定（人骨による生育地推定等）
X線分析顕微鏡		HORIBA（堀場）	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析（錦絵色材等） ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡（SEM-EDX）		JEOL（日本電子）	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察（種実同定、種実圧痕、金属製品等） ・微小部の元素分析
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視光分光測色
赤外線カメラシステム					
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・イノバックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料、館外所在資料の極部元素分析
AMS-14C法支援機器					・炭素14年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析試料の調製
内 訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・酸素安定同位体分析試料の調製 ・炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	

[図 書]

本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を収集し、利用に供して、館内外の研究者の調査活動の支援を行っている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認した上で、必要な図書等を選定し、各施設の整備等を進めて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

(1) 2023年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。

本館が収集する図書・雑誌（逐次刊行物）は、紙媒体のほか、マイクロ資料、電子情報資料（データベース・電子ジャーナル・電子ブックなど）を対象とする。

[図書]

- ・日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。
- ・共同研究、展示、資料に関わる基本的図書を収集する。
- ・自治体史（都道府県史・市町村史）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のもの）は蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める。

[雑誌]

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌は購入のほか、オープンアクセスの有効活用を図る。

(2) 2023年度の活動概要

1) 入館者用図書室における新型コロナウイルス感染症対策の終了

入館者用図書室における新型コロナウイルス感染症対策を、2023年5月8日以降終了することとし、新聞や映像音響資料のサービス提供を再開した。

2) 購読雑誌等の選定

外国雑誌の価格が高騰しているため、2024年度購読外国雑誌の予備選定を館内の全教員に対して行い、購読の見直しを行った。和雑誌については現在購読しているものを継続することにした。

3) 第2書庫階段室への電源および除湿機の設置

第2書庫階段室の夏場の湿度が高くなることから、階段室内に電源を設けるとともに、常時運転可能な除湿機とサーキュレーターを設置した。

4) 和雑誌の移動

第2書庫への和雑誌の移動を行った。移動に際して、別置の雑誌を極力なくすとともに、刊行頻度（月刊・季刊など）を省略したタイトル順で配架するルールに統一した。

5) WEKO2からWEKO3への移行対応

機関リポジトリの公開基盤であるWEKO2の更新にともない、不正表示の修正等を行った。なお、学術機関リポジトリデータベース（IRDB）のハーベストに関する修正については、現在も継続中である。

6) 移動集密書架の一部撤去

研究用図書室の移動集密書架の一部を撤去し、研究用図書室内の避難経路の整備を行った。

(3) 今後の課題

1) 図書購入費について

配分予算の縮小や電子ジャーナル（外国雑誌）の価格上昇により、図書購入費のうち新規図書購入に充てられる予算は減少している。予算を圧迫している外国雑誌について、2023年度に見直しと削減を行ったが、今後も適宜見直しを行う必要がある。

また、電子ジャーナル・データベースの利用方法がわかりにくいため、館内専用ホームページ等の改善が必要である。

2) 教員寄贈図書について

校費で購入した図書や、退職する教員からの図書の寄贈が増えている。重複購入の防止や図書登録の迅速化のため、教員による寄贈図書の重複確認や寄贈リスト等の作成について、引き続き年度はじめに周知・徹底する必要がある。

3) 研究用図書室の書架整理について

和雑誌の移動を行ったことにより、研究用図書室にまとまった配架スペースができた。今後、第2書庫1層の外国雑誌を2層に移動させるとともに、別置や狭隘化している部門の配架計画の策定、および移動作業が必要である。

図書担当 三上 喜孝

[図書受入冊数]

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	4,937	147	8	0	372,378